

松陵会史発刊に寄せて

秋田県立能代高等学校長

菊 谷 一



大正13年、甲子園球場の完成と同じ年の暮れに、能代中学校の設置が認可されたことに、本校と甲子園との浅からぬ縁を感じております。開校から4年後の昭和4年に、ブリキ缶の中から生まれた能中野球部（「母校贊歌」より）は、昭和15年の奥羽大会への出場で、確かな手応えを感じたはずです。その後、松陵会の皆様の御支援をいただきながらも、大戦を挟んで、悲願達成まで実に23年の歳月を要しました。しかし、大きな壁を乗り越えて以降、能高野球部は、県北の地から常に全国大会出場のチャンスを窺う存在となったのです。全国で唯一、高野連に認可されています全県選抜高等学校招待野球大会（昭和32年にスタート）が、能代の地で開催されていますのは、その部の実力が認められた証でありますし、事実、夏の選手権大会では、代表決定戦に臨むこと8回、うち4度は全国行きの切符を手にしたのであります。中央地区の、それも特定の高校が圧倒的な強さを誇り代表の座を射止めている県の野球界にあって、それを阻むことができるは、県の球史に輝かしい足跡を残している能代高校を描いて考えられません。

手許の断片的な資料には、苦節34年、夢にまで見た甲子園初出場を果たした当時の様子がありありと描き出されています。それは、本校関係者のみならず、能代市民の悲願でもあったのでした。誕生から77年に及ぶ能高球史には、先人の遺した数々のドラマがあり、高校野球に対する熱い想いがちりばめられていることでしょう。今日のように、県を代表しうる実力を有するようになった陰には、選手や部長・監督をはじめ、関係の皆様方の並々ならぬご努力があったことと推察いたします。能高野球部に輝かしい歴史と伝統を築き上げてこられました先輩諸氏に敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

時代を担う能高球児には、校是である「文武両道」を貫きつつ、たゆみない努力を続け、己の限界に挑戦し、フェアプレーに徹する能高野球の精神を正しく受け継ぎ、球史に輝かしい一頁を加えていくってもらいたいと思います。

本校創立80周年を期して、能高野球部がさらに大きく飛躍されることをご祈念申し上げますとともに、野球部史発刊に携わってこられました皆様に敬意を表しまして、お祝いの言葉といたします。